

二 平和を未来へ

（青少年平和交流派遣団）



被爆 50 周年記念事業碑母子像（長崎市内）

武蔵野市青少年平和交流派遣団の概要

武蔵野市では、昭和57年に非核都市宣言を行い、今年30周年を迎えました。これを記念して、改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを、次世代を担う子供たちに肌で感じてもらうため、武蔵野市在住・在学の中高生12名による「武蔵野市青少年平和交流派遣団」を、長崎市へ派遣しました。

8月8日から8月10日の派遣期間中は、長崎市の青少年ピースフォーラム（青少年ピースフォーラムとは、全国の青少年と長崎の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さについて学び、交流を深める事業です。同フォーラムでは、長崎市青少年ピースボランティアの高校生や大学生が平和学習を進行したり、被爆建造物等を案内しています。）に参加し、被爆者の体験講話を聞いたり、平和祈念式典への参加を行いました。また、全国34の自治体から集まった約350名の小・中・高・大学生たちと、平和をテーマにした学習会や意見交換会に参加し、併せて被爆遺構の見学を行いました。

同派遣団は、3回の事前学習や事後の報告会も含め、様々な平和学習を行いました。

今後、各団員たちは平和について学んだことを、それぞれ家族や友人に伝え活かしていく予定です。



長崎市長表敬訪問

青少年平和交流派遣団に参加して

東京学芸大学附属小金井中学校 一年

塩澤 しおざわ 理紗 りさ

私は今回、平和交流派遣団に参加させて頂きましたが、まず興味を持ったのは、『平和とは何か』という事でした。

ピースフォーラムでは、他の都道府県の人達と交流して平和について考えました。『平和でない時』はどういう事を考えていた時、ふいにシリアなどでは今でも戦争が続いているという事を思い出しました。最近でも、シリアで日本人ジャーナリストが戦争に巻き込まれて死亡するという事件があり、改めて戦争のない平和な世界にするにはどうすればいいのかを考えさせられました。

次に関心を持ったのは、長崎平和式典についてです。この式典は毎年当たり前のようにNHKで放送されていますが、いつからやっているのかという事が知りたくありません。

9日の式典が終わった後、原爆資料館に行き年表をた

どつていると、平和式典と同じようなものを終戦から早くも10年以内に行っていて、正式に『平和式典』と決まったのもそれから約5年後だということがわかりました。終戦してからまだ完全に復興していない頃から、戦争で亡くなった人々の事を思い、二度と戦争が起こらないように願うこと、今でもその式典が残っているという事は、平和な世界に少しずつ近づいていく為に意味のある素晴らしいことなのだと思います。

長崎に行く前は、戦争の事を知る手掛かりは本やテレビの他に祖父母の話しかありませんでした。しかし、今回長崎に行ってみて、戦争は二度と起こってほしくないとても恐ろしいことで、それを経験した人々は1日1分1秒でも早く戦争の無い平和な世の中になってほしいと強く願っているという事がわかりました。実際に戦争を経験した方はもうお年寄りの方ばかりなので、これから私達若い世代がその方たちの経験したことを次世代に引き継いで行くにはどうしたら良いかを考えていかなければならないと感じました。今はまだ中学生ですが、もっと広い分野で今回経験したことを伝えていきたいと思っています。

青少年平和交流派遣団に参加して

吉祥女子中学校 二年

高林 彩香
たかばやし さやか

このたびの武蔵野市青少年平和交流派遣団で派遣されるにあたり、私は多くのことを学びました。その内容は、原子爆弾（核兵器）がいかに恐ろしい被害を及ぼしたか、平和はいかに大切かについてです。

実際に見た原子爆弾による被害は、事前学習で知っていたものよりはるかに衝撃的でした。原爆資料館や浦上天主堂などの現在に残っている被爆の跡を巡り、目で見て感じたからこそ、わかるものだったと思います。そして、その被害の大きさを知ったからこそ、平和についてさらに深く考えることができました。二度とあのような惨劇を起こしてはならないと、強く思います。

私はこれから社会に出るにあたって、今回で学んだことを最大限に生かし、戦争や原子爆弾の非正当性についてを語り継いでいけたらと思います。実際に被爆を経験された方達も、私たちの世代が大人になるころには、もうお亡くなりになっていることでしょう。私たちはその

方々に代わって声を上げてゆく必要があります。でなければこの惨劇の存在が忘れ去られてしまうかもしれない。

そして、今回の派遣団に参加したことを決して忘れずに、ここで学んだ数々のことをこれからの自分の人生にも役立てていきたいです。



青少年平和交流派遣団に参加して

吉祥女子中学校 三年

八木 やぎ 詩織 しおり

毎年8月9日にテレビで放映されている平和祈念式典に参列できたことは、私にとって大変意義のあるものになりました。まず、式典の司会、献水や献水の水の採水を小、中、高校生が担当していることに驚きました。東京より平和への関心が、街全体として高く、特に戦争を体験していない学生にまで高く、式典の多くの場面で、活躍していることに感心しました。

また、長崎市議会議長の式辞に「長崎では小学生や中学生の子どもたちが、年老いた被爆者が語る被爆体験に耳を傾け、平和について学び、核兵器の恐ろしさと平和の大切さを心に刻んでいます。高校生は平和大使として世界に向けた核兵器廃絶運動に若い力を注いでいます。」とあるので、街をあげての平和教育が盛んだということが伝わってきました。私たちもまた67年前の日本で何が起きたかを考え、平和であることの大切さをいつ

までも心に持ち続けなくてはいけないと思います。

ピースフォーラムでは、被爆体験を話してくださいました方がいますが、私たちが大人になる頃には、戦争体験をされた方々は、亡くなられてしまうので、直接、お話を聞くことができた私たちが、次の世代に語り継ぐ大切さも感じました。

世界には未だに1万9千発もの核兵器が存在しており北朝鮮、イランの核兵器開発の動きが国際関係の緊張を高めているので、核兵器のない世界を望む私たちの声を世界に届けていくことが大切だと思います。